

世間解

第四三六号

令和六(二〇二四)年六月

発行 西法寺

念仏もうさるべし

一 恒と常

六月であります。この月が済むと今年も半年過ぎるのであります。毎日、毎日 いや、一時、ひととき、一呼吸、一呼吸の積み重なりであります。

その間一瞬も途切れることなく、阿弥陀さまのご本願は私を支え、育て、護り続けてくださっております。そのご本願のお力が先立たれた方をお浄土に生まれさせてくださり、阿弥陀さまと同じお覚りをひらかせてくださっておりますのであります。先立たれた方は阿弥陀さまの本願力によってご往生くださり、今は阿弥陀さまと一緒に、色んなことにあってゆかねばならない私の日暮らしを途切れることなく支え続けてくださっておりますのであります。

だから私は「なんまんだぶ、なんまんだぶ」とお念仏を味わわせていただくことが出来ております。親鸞聖人がお書き残しをくださった

『一念多念文意』というお聖教に、『「恒」はつねにといふ、「願」はねがふといふなり。いまつねにといふは、たえぬころなり、をりにしたがうて、ときどきもねがへといふなり。いまつねにといふは、常の義にはあらず。常といふは、つねなること、ひまなかれといふころなり。ときとしてたえず、ところとしてへだてずきはぬを常といふなり。』というお言葉があります。「恒」も「常」も「つね」と読む字でありますが、「開山さまは意味をかえられているのであります。「恒」という「つね」は時々、途切れ途切れではあるがということだ、

「常」という「つね」はズーッと、決して途切れることがないことだとおっしゃるのです。申しあげるまでもありません「常」は阿弥陀さまやご往生くださった方々が私を支え続けて続けてくださっているおはたらき、本願力であります。

その本願力のおはたらきがズーッとあってくださいているから私は「あつ、そうやった」と阿弥陀さまのことや親鸞聖人のことやご往生くださった方のことを

思い出すことが出来ております。

その本願力のおはたらきがズーッとあってくださいているから私は時々ではあるかもしれないけれども「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏を思い、聞かせていただくことが出来ておりますのであります。

この半年間なら半年間、私の日暮らしの中には色々なことがやってきました。元日には能登半島で大きな地震がありました。大きなことは記憶に残っていますが、大きなこと以外のほとんどは忘れ去っています。しかし、確実に私は経験をし何かの思いを持ったはずのことばかりです。

うれしいことも、悲しいことも、悔しいことも、楽しいこともあったでしょう。なんとも思はないことも無数にあったはずです。

一瞬一瞬私に恵まれた“いのち”の「コマ」コマであります。その一瞬一瞬のどこをとっても、阿弥陀さまやご往生くださった方の「お前さん必ず支えてるで、お念仏を依りどころにして生きてくるんやで」というおはたらきは途切れることなく私にかかり続けてくださったおるのであります。

親鸞聖人は「権化の仁」ということをおっしゃるのであります。私を阿弥陀さまの教えに、私が阿弥陀さまやご往生くださった方々に願ひ続けられているんだということを感じかせるためにお浄土から来てくださった方ということでもあります。私にはどの“いのち”が権化の仁であるかなど絶対に分かりませんし、知る必要もありません。権化の仁も自分が権化の仁であるなどは決しておっしゃいません。しかし、確実に私にいろんな縁(それは決して良いことばかりとは限りません)を結んで、私を阿弥陀さまのお育てに気づくようにおはたらきくださっているのであります。

梯實圓和上は「ご自身が煩惱にまみれ、苦悩のまったただなかで、煩惱だらけの私に阿弥陀さまのおはたらきをお教えくださるのが権化の仁なんだな」とお教えくださいました。

阿弥陀さまの、ご往生くださった方々の、権化の仁の途切れることのない「つね」なるお育てによって私は「なもあみだぶつ」というお念仏のありがたさに気づかせていただくお育てに遇わせてもらっているのであります。